

社団法人ゴルファーの緑化促進協力会調査研究

環境と人にやさしい ゴルフとゴルフ場

第13回 GGGが里山の整備活用を支援

心をはぐくむ「こげさわの森」

日本大学生物資源科学部 教授
心をはぐくむ「こげさわの森」検討委員会 座長

桜井 尚武



はじめに

東京都は、平成 17 年度から都有保安林を整備して、人々が自然観察や森林浴、リクリエーションなど、健康と福祉に活用できるようにする「わたしの森づくり事業」を、民間団体と協同で行うことを始めてきました。

この事業の目的は、都民はもとより多くの人に森林を楽しんで貰って、森林が持つ多様な価値に気づいて貰うこと、ひいては広く自然と触れ合える価値ある空間を創造する、そのモデルをまず開発して実際に見せることです。その成果を素に、さらに効率よく次の事業を展開するための見本とするというねらいがあります。

これまで余り活用されていなかった保健保安林を、人々が利用しやすいものへと整備し、さらに利用する人たちが楽しめ、何か価値ある経験と知恵を得られるようなサービスをも提供できる、そんな森林を作ることに協力しようと、社団法人ゴルファーの緑化促進協力会（以後 GGG）がその 30 周年記念事業の一つとして、平成 18 年から 3 年間でこのモデル事業を完成させるべく参画することになりました。



■二段林



心をはぐくむ「こげさわの森」検討委員会と整備状況

モデル事業の実施に当たり、GGGと東京都および財団法人東京都農林水産振興財団は三者協定を結び、森づくりや生態系、環境問題等に造詣の深い委員と、整備事業の実行と利用のためのプランであるソフト開発を担当するNPO法人森づくりフォーラムで構成す

る“心をはぐくむ「こげさわの森」検討委員会”を平成18年6月に発足させ、企画立案とその検討を行いました。そして、その検討結果に沿って、同時平行的に整備事業とソフト開発を実行しました。

これまでに、間伐が進み、林床を覆っていた下層の藪もかなり刈り払われて見通しがよくなりました。そして、特段の刈り払いなどはやらない自然の推移に任せたままの場も残



■ 間伐材を利用した路肩

雨露をしのぎ、語らいの場にもなるあずま屋が二軒、木チップを活用したバイオトイレも完成しました。森のほぼ中央になる「みんなの広場」には、段々畑状の広場を作りました。ここはオープン記念会場の中心でしたが、今後この森林を活用するイベントの中心です。

提供できるソフトも整備が進んでいます。「ようこそ、こころをはぐくむ『こげさわの森へ』」と題した、自分で楽しめる情報を記載したパンフレットが出来ました。

(http://www.ggg.or.jp/WN02/149ebd3df096cf_pdf1.pdf ,http://www.ggg.or.jp/WN02/149ebd427be039_pdf1.pdf)

どこに何があるかや樹木の音を聞く方法、お土産探しなど、疑問、質問、コメントを記載したガイドシートも見本が出来ました。

して、自然力の発現の結果との林相の違いが比較できる配慮がしてあります。

この森林の入口である大下（おおしも）集落に近い一の沢から二の沢を経て三の沢までの山麓部をゆっくり歩ける水平の遊歩道が完成しました。歩道の路肩に間伐材や立木が工夫して使われていて、随所に施工者の知恵を観察できます。二の沢を渡る橋と橋桁を支える石組みの妙は、かつて作られていた遺構を活用したものです（橋桁支えの図）。



■ 橋桁の支え

(http://www.ggg.or.jp/WN02/149ebd460d8bf2_pdf1.pdf ,http://www.ggg.or.jp/WN02/149ebd49b61960_pdf1.pdf)

ガイドシートの種類を増やして行くことで、更に進んだ楽しみ方へ誘うねらいがあります。

この森林を拠点にして、地元や都などの行政、運営や活動に当たる団体などで協議する場を作り、「大同の精神」で運営の合意を図りつつ活動を進めて行くことが確認されています。



こげさわの森の概要

「こげさわの森」は、JR 中央線高尾駅北口から小仏峠行きバスで「大下」を下車して木下沢林道を約 15 分歩いて着く東京都の健康保安林で、木下沢から尾根筋を走る北高尾稜線道に達するまでの約 60 ha を占める南に面した林地です。標高 250m～550m くらいの範囲の急傾斜面に、約 40 年生のスギとヒノキの人工林があり、これらが 60%位を占めます。

林地の 40%程度は広葉樹林です。この林地は、もともとは、地元の共有林だったものを東京都が買い上げて「東京都保健保安林」としたのだそうです。

人工林の一部は、数年前の山火事が発生して大きくなったスギが枯れました。その跡地に、スギやヒノキを植えて、二段林を作っているところがあり、これも観察の対象です。二段林とは、生育段階（樹齢）の異なる樹木が同じ場所に植えられている林分のことです。多様性が高くなるのが普通です。

針葉樹林を登って行くと、広葉樹林へと林相が変わります。コナラを主とする林で、ヤマザクラの大木やケヤキの大木が点在し、馬の背の小尾根の上にはモミの木も生えています（ヤマザクラの大木の図）。

林床は、ムラサキシキブやダンコウバイ、アカシデ、アオキ、コバノトネリコなど多様な種で覆われています。急傾斜ですが、かつてはこの近在の人々の生活に必要な薪炭を生産した場だったのでしょう。

さて、団塊の世代といわれる、今 60 歳以上の人たちには、炭や薪を使った生活を覚えて

いる人が多いでしょう。それより若い人たち、ましてやこれから青年になる人たちの多くは、薪や炭を使う生活を知らず、広葉樹林の意義など考えても見なかったと思います。そ



■ヤマザクラの大木

のような人たちが、薪炭林の意義、ひいては里山に思いを巡らすいい機会を得られる場だと思います。



おわりに

自然は私たちが生きて行く全てを提供してくれる場です。そして、日本では、陸地はどこでも放っておけば森林になるのです。文明の機器に支配されてしまって、テレビやゲーム機や自動車などから離れられなくなってしまうまでは、森林は子どもの遊び場、虫取りや山菜採りなど勉強の場、ターザンごっこやキャンプ、隠れ家作りなど生活技術習得の場だったのです。行き過ぎた文明漬け、危険食品の判別力低下など生活術の喪失から、ヒト本来の生活力を取り戻し、ヒトの生存環境を保全するためにも、森林で遊ぶ経験がいいという理解が広まっています。

心をはぐくむ「こげさわの森」のオープン記念事業が、平成 21 年 4 月 25 日に行われ、緑化や環境保全を支援する全国のゴルファーを代表して G G G は石原東京都知事の感謝状を受領いたしました。この事業がよい結果を生み出し、他の保健保安林の整備活用のモデルになることを期待します。



■ こげさわの森オープン式典 (2009. 4. 25) より

※保健保安林：保健保安林は、保安林のうち生活環境保全機能および保健休養機能の高い森林として指定されたもの。現在、風致保安林と併せ約 60 万 ha であり、保健保安林内では森林にふれあうための施設整備も行われている。(E I C ネットより抜粋)